

第2学年英語科学習指導案

日 時 令和6年5月31日（金）公開授業Ⅰ
 学 級 岩手大学教育学部附属中学校
 2年B組34名
 会 場 1A3A教室
 授業者 工 藤 卓 大

1 単元名 Lesson 2 My Dream (NEW CROWN English Series 2)

2 単元について

(1) 生徒観

事前アンケートによると、生徒の約96%が英語は役立つものであると考え、約70%が一番大切なことは「英語を話すこと」だと考えている。理由として「実際に生活していく中で、使うのは話すときだから」「どれだけ英語の文章を書けても、実際に話すときに即興性がないとコミュニケーションにならないから」など、より実生活の中で英語を使用していくことをイメージしていることがわかる。一方で、「英語を話すことが得意」と回答した生徒は約33%（表1）であり、英語を話すことは大切であると考えながらも苦手意識が強い。特に発表場面においては、「変なことを言っていないか心配」「自分の意見や思いに自信がない」など、間違いを恐れ、自信をもって英語で話すことに苦手意識を抱いている生徒が多い。

表1 英語4技能に対する意識調査（%）

	得意	どちらかという得意	どちらかという苦手	苦手
聞くこと	18	39	25	18
話すこと	10	22	40	28
読むこと	25	32	33	10
書くこと	13	30	31	26

本単元では、生徒が英語で自分の夢や将来やりたいことについて自信をもって発表する姿をねらいとしている。人によって、自分の思いを表出することに得意不得意はあるが、本単元の言語活動を通して、正確ではなくとも何とかして自分の考えを相手に伝え（言語の曖昧さに耐え）、生徒同士で互いにフィードバックしながら、よさや強みを見出し、自己の発表スキルをブラッシュアップしながら、自信をもって英語を話そうとする生徒の育成を図りたい。

(2) 教材観

本単元は、『中学校学習指導要領解説外国語編』の目標「(4) 話すこと〔発表〕イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする」を中心に、複数領域にまたがる統合的な言語活動を進めることができる単元である。自分の夢が教科書の題材としては取り上げられている。生徒は、小学校でも同様の題材を通して、自分の夢や中学校でやりたいことについて英語で話した経験がある。小学校では、want to を使って将来の夢を示したのち、can や like を使って理由付けを行っている。中学生となり、言語材料や表現方法、構成の工夫など扱うことのできる内容は充実してきている。生徒は夢の理由について、過去形を用いて自分の経験を基に具体的に示したり、接続詞（when、if）や未来の表現を用いて、職業に就いた後の自分の姿まで語ったりすることができる。生徒が自己の強みを生かし、成就感を得られるような発表となるよう、単元を通して自分の考えを英語で表現する場面を複数回設定する。言語材料としては不定詞を含む文を学習するが、既習事項をスパイラルに活用する中で、徐々に定着を図る。

(3) 教科研究との関わり（指導観）

本校英語科では、教科研究主題を「自己の強みを自覚し、共感的にコミュニケーションを図ることができる生徒の育成」と設定し、育成を目指す資質・能力を表2の通り整理した。

表2 英語科で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
○課題解決のために必要な知識を身につけ、実際のコミュニケーションにおいて、自身の経験や既習事項を関連付けながら活用する力	○答えのない様々な問いについて考える中で、コミュニケーションの目的・場面・状況に応じて、既習事項を活用して言葉の曖昧さに耐えながら自分の考えを伝え合う力	○メタ認知を通して、自己の学習方略を振り返りながら、探究心や好奇心をもって最後まで相手を慮りながらコミュニケーションを図ろうとする力

本単元のまとめ活動である「自分の夢や将来やりたいことについて発表する」ために、本研究では「個別最適な学びと協働的な学び」の視点からアプローチする。

研究の視点①個別最適な学びと協働的な学び

本単元では、第1時にパフォーマンス課題を行う目的・場面・状況を確認し、その場面における目指す姿を生徒と共有し、そのために付けたい力や目指す自分について見通しをもって考える。第2～6時では、発表場面向けた表現方法を学ぶ。また、帯活動で行うスピーキング活動を通して自己の強みについて自分自身で考え、級友との協働の中で互いに認め合いながら目指す姿に向けた学習方策を自己決定させたい。第7～8時の表現方法や構成について学ぶ場面でも、生徒が自分の発表したい内容に応じて段落構成を検討できるようにする。第9～10時の協働場面では、ペアやグループでの協働の中で、生徒同士が互いの感性や考え、表現方法や工夫の違いに気づき、良さや違いを認め合うことで、外国語におけるコミュニケーションの見方・考え方を働かせてパフォーマンス課題に向かう姿を目指したい。また、単元を通して自己の成長をメタ認知できるように ICT 端末を活用し、既習事項や自己の変容、クラスメイトの学びをいつでも参照できるように環境を整える。

3 単元計画

(1) 単元の目標

Fuzoku High School の面接で、自分の夢や将来やりたいことについて、自分の考えやその理由などを加え、簡単な語句や文を用いて伝えることができる。

(2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
〔知識〕 自分の夢について発表するために、必要な知識を理解している。 〔技能〕 日常的な話題（自分の夢）について、自分の考えを発表する技能を身に付けている。	Fuzoku High School の面接で、自分の夢や将来やりたいことを発表するというコミュニケーションを行う場面において、自分の考えやその理由などを、簡単な語句や文を用いて伝えている。	Fuzoku High School の面接で、自分の夢や将来やりたいことを発表するというコミュニケーションを行う場面において、自分の考えやその理由などを、簡単な語句や文を用いて伝えようとしている。

(3) 指導の計画

時	■ねらい 主な言語活動等（丸数字） 関連領域：L 聞くこと R 読むこと SN 話すこと [やり取り] SP 話すこと [発表] W 書くこと	関連する評価の観点			備考
		知技	思考表	態度	
1	■単元計画を知り、学びの見通しをもったり学習計画を立てたりする。 ①自己のパフォーマンスを分析する。 5月段階での既習事項で、自分の夢や、やりたいことを級友に伝える。 - 既にできること、本単元で新たに獲得したいこと等を単元シートに記入する。 ②個人目標を設定する。 ③単元のパフォーマンス課題に対するルーブリックを作成する。 ＜ルーブリック作成の手順＞ i) 「良いパフォーマンス」の要素（言語面、内容面）を挙げる。 ii) B評価（全員が到達したい基準）、A評価の記述語を考える。 iii) 言語面での A 評価について、生徒の強みを生かして選択できるようにする。 iv) S評価の記述語を各生徒が追記する。（個人目標） ④単元目標達成のために、単元途中で到達したい姿を記述する。 - 内容のまとめ（教科書題材や言語活動の領域）ごとに言語化する。				①個別最適な学びと協働的な学び 見通しをもって、自分で目指す姿や付けたい力について検討する。また、自分の強みについて、単元前の段階で考えることで、一人一人が伸ばしたい力について具体的に考えることができるようにする。

2 ～ 6	■Lesson 2 My Dream の教科書本文を読んだり聞いたりして、概要を把握し、効果的な表現方法や文章構成を学ぶ。 ①新出の言語表現（不定詞）の特徴やきまり、使い方を確認する。L R S(U) W ②教科書の構成を基にして、自分の話す内容の構成について考える。R S(P)	①個別最適な学びと協働的な学び - 内容面について、教科書題材の構成 (I have ○○ reasons. First, ～) だけにこだわらず、自分の話したい内容に応じて構成を工夫できるよう、補助教材を提示する。 - 生徒相互で互いに発表し合い、より良い発表に向け良さを改善点についてフィードバックを行う。			
7 ～ 8 本時	■モデルのスピーチから、言語面の工夫を学ぶ。 ①日本人の有名な英語でのスピーチから、相手に想いを伝えるための言語面の工夫について考える。L R S(P) ■聞き手に伝わりやすい文章構成について考える。 ①教科書以外の題材から、様々な英語の構成について学び、自分に合った構成の方法を考える。L R S(U)				
9 ～ 10	■発表に向け、自分のスピーチの構成を再構築したり、相手により伝わりやすい表現にしたりブラッシュアップしている。 ①前時までの蓄積（メモや級友からのアドバイス、ICT を活用した自分の姿）や練習を基に、グループで相互に発表を行う。S(P)	※第1～10時は「記録に残す評価」は行わない。やり取りの様子や提出された音声、記述、単元シートに対して、全体及び個別にフィードバックすることで指導に生かす。			
11 ～ 12	■自分の夢や将来やりたいことについてのスピーチを行う。 ①目的・場面・状況に即した発表の場で、自分の夢や将来やりたいことについてスピーチをする。S(P) - 不定詞の表現を、必要に応じて正しく使えているか【知識・技能】 - 自分の考えやその理由などを、簡単な語句や文を用いて伝えることができるか【思考・判断・表現】	○	○	○	

4 本時について

(1) 目標

実際のスピーチ原稿を読んだり、映像を視聴したりすることを通して、言語面で自分のスピーチを深化する。

(2) 授業構想

本時は英語でスピーチをする際の工夫について、実際のスピーチを通して主に言語面から、自分の発表について、改善点を考えていく1時間である。

導入では前時までの自分のスピーチをペアに評価してもらい、現状分析を行う。その中で、目指す姿とのギャップを自覚し、課題意識をもって本時に参加する。展開では、全体でモデルとなるスピーチを見る。その後、ペアで映像や原稿（英語版・日本語版）を基に、思いを伝えるために話者はどのような工夫を行っていたのかについて検討を行う。その後全体で共有する中で、話者は様々な経験を基に、言語面の工夫（話すスピード、間、強弱等）についてどのような意図や理由で行っていたのかについて考える。終結では、本時に学んだことを生かして、実際に自分のスピーチに生かせそうな部分について考え、再度ペアに話すことで、言語面の強化を図る。

(3) 本時の展開

段階	学習内容および学習活動 ・予想される生徒の反応等	指導上の留意点および評価 ・指導の留意点 ○評価
導入 10	<u>1 前時までの内容の復習</u> ・単元目標やこれまでの学習から得た学びを共有する。 これまでの授業で得た使える表現方法（言語面）と構成（内容面） 構成（内容面） ・教科書型（My dream is ○○. I have ○○ reasons. First、 …） ・OREO 型（Opinion、 Reason、 Example、 Opinion） 表現（言語面） ・簡単なジェスチャー ・英語でのフィラー <u>2 本時の学習課題の共有</u> ・ゴールの活動を想起し本時の目標への意欲を高める。	・実際に授業前段でどれだけのスピーチができているのかをペアで把握させる。
展開 30	相手に想いを伝える工夫とは？	
	<u>3 個人活動（工夫についての検討）</u> ①映像や原稿を基に、話者の思いを伝える工夫について検討する。 ②一番伝えたい部分や、強調している部分の読み方（強弱やスピード、間など）についてどのような工夫があるのかを確認する。 <u>4 ペア活動（工夫についての確認、議論）</u> ①個人で考えたことをペアと確認する。 ②級友の視点からの学びを得たり、意見のずれについて理由を踏まえて述べたりする。 <u>5 学びの共有</u> ①聞き手に想いを届けるためにどのような工夫があったのかを共有する。	・生徒が映像をみたり文章を読んだりしている場面から、必要な支援を把握し、適宜全体で共有する。
終結 10	<u>6 学びの振り返り</u> ・真海さんのスピーチから、自分のスピーチに取り入れることができそうなことを考え、ペアと練習する。	・授業前段と授業後のスピーチについて、向上した点をペアで相互評価させる。